



比嘉照夫教授質疑応答エッセンス集 (広報担当 大山)

「比嘉照夫教授特別講演会 in 旭」から

<質問要約>

連作障害に対する EM の効果について解説してください。

<比嘉教授からのコメント>

連作障害の原因は、特定の作物に対する病害虫密度が高まること、栄養のバランスが崩れること、連作障害物質が蓄積することが考えられます。

病害虫については、様々な事例から紹介しているように、土壌の生態系が多様化することで病害虫の密度が低下することと作物の健全度が高まることで防除可能です。

栄養バランスについても、土壌生態系が多様化することや収穫残渣を畑に還元することで対応可能です。

連作障害物質も EM の密度が高まり土壌微生物が活性化することで分解が促進されます。

実際にトマトを 20 連作した実績もありますが、残渣を戻し EM 散布を徹底すれば、連作するほど良く育つ土になります。

東電が EM を用いた除染作業費の賠償請求を認めました！

当 NPO 復興支援活動における EM 供給拠点の1つ柴田農園(栃木県那須塩原市)は、原子力損害賠償紛争解決センターに EM を活用した除染費用(30,150 円)の賠償を申請していましたが、今年 2 月 9 日、同センターの和解案を東京電力が全面的に認め賠償することになりました。前例のない賠償であり EM 散布と除染の因果関係を説明するのに当初は苦戦されたとのことですが、「丁寧な対応をすれば大丈夫だ」ということが今回わかりました。

柴田農園様は「30,150 円が欲しいから賠償請求をしたのではない。EM を用いた除染を東京電力に認めさせたかったのです」とコメントしておられます。私たちに新たな可能性の道を拓いた柴田様に心から敬意を表するとともに、今後も多くの実践現場へ波及することを期待いたします。

EM 関連団体が紹介された新聞記事

■3 月 8 日付、中日新聞夕刊1面(トップ記事)

「新川をよみがえらせる会」(加納祐一郎代表・愛知県清須市)の取り組みが、3 月 8 日付中日新聞夕刊の1面トップに、大きく掲載されました。

同会では、愛知県の河川における水質ワースト 9 位という新川を浄化すべく 4 年前から EM の投入を行っています。近年ヘドロばかりだった川底に砂地が見え、昨年はアユの遡上が確認されたとのこと。このため、さらに新川の浄化への関心を高めようと、「木曾川うかい」の鶴匠の協力を得て、鶴飼を実演することになりました。

4 月 20 日(土)午後 4 時から鶴飼の説明などが行われた後、午後 7 時から、清須市役所近くで鶴飼が実演されます。興味のある方はお立ち寄りください。

■3 月 26 日付、沖縄タイムス朝刊(17[暮らし]面)

沖縄タイムスの新特集「働きたい～障がい者雇用のいま～」の第一回目で「EM ウェルネスリゾート コスタビスタ沖縄ホテル&スパ」(沖縄県中頭郡北中城村)の取り組みが紹介されました。

記事では、同ホテルで客室清掃係として働く安田芳喜さん(56)にスポットをあて紹介しています。安田さんは 20 代で統合失調症を発症して以来、障がいを隠しながら転職を繰り返さざるをえなかった経緯や、2010 年、同ホテルに採用されてからは、パートタイムから徐々に勤務時間を延ばし、現在では他のスタッフと同様の勤務ができ業務上遜色なく仕事をこなすまでになるなど、病気を隠すことなく安心して働いている様子がレポートされています。

■新刊書籍のお知らせ

既にお読みになった方も多いかと思いますが、田中佳医師の新しい著書が発売されました。

「続・健康自立力 -後悔しない治療の受け方-」、メタモル出版発行、¥1,680。田中医師いわく「渾身の一撃」とのこと。お求めは最寄りの書店で。

■イベントのご案内

「善循環の輪 福島浜通りの集い in いわき」、【日時】4 月 29 日(月・祝)、12 時 45 分～16 時 30 分、【場所】いわき市総合保健福祉センター(多目的ホール)、入場無料、お問い合わせは U-ネット事務局まで。

